

3回戦

2016 年度春季リーグ戦
第3週 4月20日
1勝2敗

好機生かせず、

連敗で勝ち点落とす

駒大 000 000 200=2
青学大 003 001 000=4

駒大2-4青学大

初回、先頭打者の米満一聖市(3)が中前安打で幸先よく出塁。犠打と内野ゴロの間に3塁まで進むも、後続が倒れ先制点は奪えない。2回、3回と安打で走者は出すものの、なかなか得点が奪えない状態が続く。

試合が動いたのは3回裏、先発の高橋由弥(経3)が2つの四球と左安打で1死満塁の危機を招くと、内野ゴロの間に1点を先制される。さらに続く打者に右中間適時三塁打を浴び2点を追加さ

勝ち点を取るためには絶対に負けられない3回戦。3投手の継投も、青学大打線に4点を奪われる。反撃したい打線だったが、あと一歩及ばず。勝ち点を逃した。

打安点	
DH	米満 410
(8)9	酒井 300
(7)	長谷川 300
H8	諸積 100
(9)	青地 300
H	篠原仁 100
7	島田 000
(3)	巴山 310
(6)	菅野 410
(5)	岡田 200
H	恒川 100
5	中道 100
(4)	新高井 100
H4	高石 210
(2)	長 321
計 3261	

	回	打安責
●高橋由	4	1623
東野	32/3	1930
伊藤大	01/3	200

れ、点差を広げられる。

援護したい打線は7回、巴山颯太郎(法2)の内野安打と敵失で無死一二塁とすると、高石大全(法4)の中前安打を相手が悪送球した間に1点を返す。その後打球間にもう1点を返すも反撃は及ばず。勝ち点を落とした。

安打数では前日の試合より数を増やし、相手を上回ったものの敗戦。西村亮監督は「相手を読みながら攻撃をしていない。ただ気持ちよく打つことしか考えていない」と厳しい表情を見せた。

投手陣が粘り強い投球を見せているだけに、打線の援護が勝利の鍵となるだろう。

文・写真〓齊藤広樹
写真〓寒川朋子



【右】3回戦マウンドに集まるバッテリーと西村監督



【右】高橋由は3試合すべてに登板した



【右】1回戦で5打数4安打の活躍を見せた米満

青学大戦写真館

ROOKIES

1回戦9回裏、2番手で登板した高橋由が1点を失い、なおも無死一、二塁。一打サヨナラの場面でマウンドに上がったのは、1年生右腕の伊藤大海だ。

「どんなピッチングか覚えてないくらい緊張した」と話したように、連敗脱出という非常に大きな重圧のかかる場面での初登板となった。

犠打と四球で1死満塁とさらに危機を広げたものの、続く打者を見事併殺に打ち取り試合終了。公式戦初登板を有終の美で飾った。

「まだまだ戦いは続いていくので、1年生の自分はやれることを全力でやっていきたい」。厳しい戦いが続く投手陣を支える活躍に期待したい。

(齊藤広樹)



伊藤大海 (いとう・ひろみ)
1997年8月31日、北海道生まれ
駒大苫小牧高出身 176㌢・80㌕